

学生村の構築

若松創成～様々な分野の学生が暮らすシェアハウス群～



「若松」とは・・・



福岡県北九州市の北西にある区である。

「若松」背景 過去



明治時代に入って、県は若松と芦屋に石炭役所を開設した。江戸時代からの筑豊-遠賀川-堀川-洞海湾-若松の川ひらた（五平太船）による遠賀川水運は明治20年代が最盛期であった。石炭がエネルギーの中心になるにつれて、その輸送の大規模化が検討され、若松築港と筑豊興業鉄道が中央資本と地元資本の共同事業として設立された。1891(明治24)年、直方-若松間の鉄道が開通し、これをきっかけにして、石炭の輸送量は増え、最初は門司港の石炭積出量が多かったが、しだいに若松港が追いつき、追い越し第1位となった。

若松は石炭積出港として発展を続け、それに伴って商業活動が活発となり、大正・昭和にかけて、本町筋は大変なにぎやかになり、明治町はおしゃれな商店街であった。1938(昭和13)年、メインストリートの中川通りに丸柏百貨店が開店した。戦後、丸柏百貨店の経営が井筒屋に移り、若松井筒屋となった。

筑豊からの石炭の積出港として、若松は発展してきた。石炭の積出量は1940(昭和15)年がピークで、戦後、復興期には石炭がエネルギーの基礎を支えましたが、昭和30年代後半、石炭から石油へのエネルギー革命が始まると、斜陽化し、筑豊の炭鉱も閉山となり、1982(昭和57)年、石炭の貨物取扱は廃止された。小売業は1960年代まで、北九州全体では九州地域では最大の販売額であったが、五市合併後は、小倉・黒崎に商業機能が集中する傾向が強くなり、若松の販売額は減少していった。その様な傾向の中、戦前から続いていた若松井筒屋が閉店し、建物も撤去され、活気を失っていった。

「若松」背景 現在①



今現在も利用されている「上野海運」



会議などに使われている「旧古河鉱業若松ビル」

かつて日本一の石炭積出港として栄えた、伝統的な文化・行事、歴史的建造物が数多く残るまち、「若松」。環境・物流・製造・エネルギー分野などの産業振興の基盤ともなる、企業進出、インフラ整備が進んでいる。



「高塔山」からの夜景



若松風車群



四千発の花火が咲き乱れる花火の祭典

「若松」背景 現在②



屋根の黄色い家が空き家



九州女子短期大学さん作成の模型



シャッター街になってしまった商店街



空き家群

魅力あふれる若松であるが、現状は・・・
シャッター街や、密集している空き家群
など活気がない街になっている。

「若松」背景 現在③



北九州には数多くの大学が存在し多種多様な興味や夢を持った学生が暮らしている。

若松区中川町へのアクセス

JR若松駅があるため、比較的アクセスが良い。

周辺大学

通学圏内である！

北九州市立大学
ひびきのキャンパス

車で25分 電車+徒歩で1時間

九州工業大学
戸畑キャンパス

車で12分 バスで30分

産業医科大学

車で25分 電車と徒歩で40分

九州女子短期大学

車で25分 電車と徒歩で40分

九州共立大学

車で25分 電車と徒歩で45分

北九州市立大学
北方キャンパス

車で20分 バスで1時間

若松区
中川町

社会人の移動距離
としては短い！

車で1時間15分 電車で1時間15分

車で1時間 電車で1時間5分

車で45分 新幹線で55分

車で2時間30分 新幹線で2時間

車で1時間50分 電車で2時間30分

車で2時間45分 新幹線ですら2時間

周辺都市

博多

宗像

下関

熊本

大分

広島

「若者」たちが「若松」でそれぞれの色を出し合える空間を創出することを想い「ワカフル」は学生村の構築を目指す。



若者

カラフル

若松

パワフル

ジョイフル

ユーズフル

「学生村」とは

去年九州工業大学を卒業された私たちの先輩「コガリキ」が創りあげたシェアハウス「Recoya」を拠点に、中川町6丁目7丁目（通称ロクカルチェ,ナナカルチェ）一帯の空き家をリノベーションし学生たちが住む地域にする計画である。

不動産会社から借りる賃貸住宅とは異なり、自分たちの手で自分たちの住処を創る。全ての家がシェアハウスとなっており空き家を利用したシェアハウス群としては前代未聞のプロジェクトを考えた。

周辺の教育機関の多種多様な分野の学生が集い、見聞を広める場所として「学生村」を提案したい。



天井

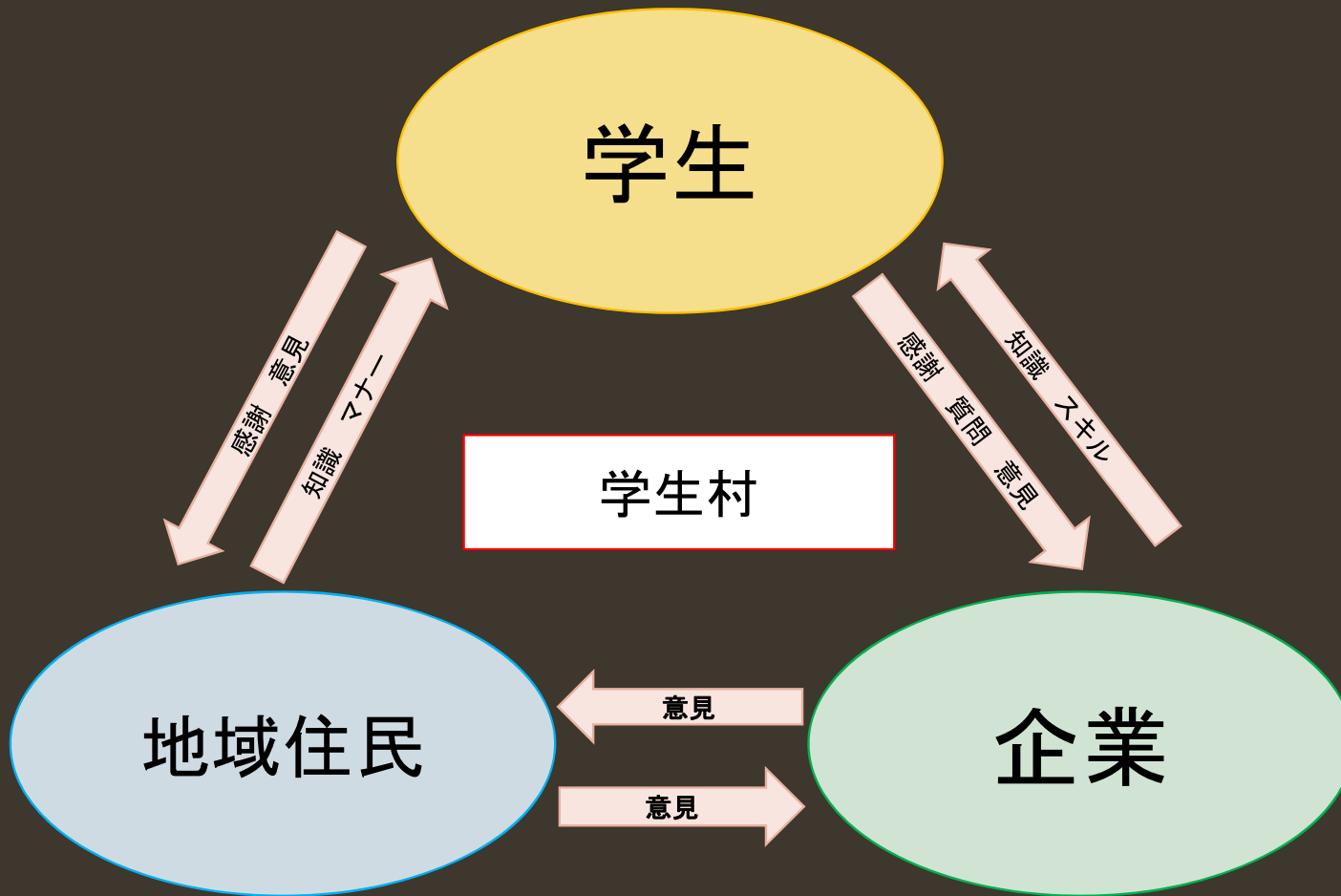


2階の部屋



改修中の外観 コガリキfacebookより

「学生村」のあるべき姿



学生同士の意見交換はもちろん、地域の住民の方とのお話も見聞を広める良い機会になる。

学生のうちは、関わる大人が限定されやすいので、社会に出る前に様々な立場の人と交流するべきだと考える。

また、学生が多く集まれば企業の方をお呼びして、セミナーや懇親会なども行えるだろう。

ゆくゆくは学生同士だけでなく、社会人の方とシェアハウスをすることも可能ではないかと考えた。一時的にお話を聞くだけではわからないことを知る機会になるのではないだろうか。

このようなカタチで、「学生村」はお互いにいい刺激となるようなコミュニティの場として存在するべきだと考える。

第一歩として

6. 7丁目にある空き家はほとんどがリノベーションしないと住めない状態である。まず学生村構築のための第一歩として私たちワカフルは、「Recoya」の隣の物件の改修案を考えた。



対象物件 2階ベランダ



対象物件 2階



対象物件 階段

asahi改修案

「この物件が学生村の始まりになりますように。」との意味をこめて、
一日の「始まり」を象徴する朝日と名付けた。
住居の広さを考慮して、2人用シェアハウスとして改修案を考えた。



S=1/50 2階平面図



S=1/50 1階平面図

これからの活動

地域活性において一番悪い例は、多額な費用をかけて自分たちのやりたいことをやるのが目的になってしまうことだ。

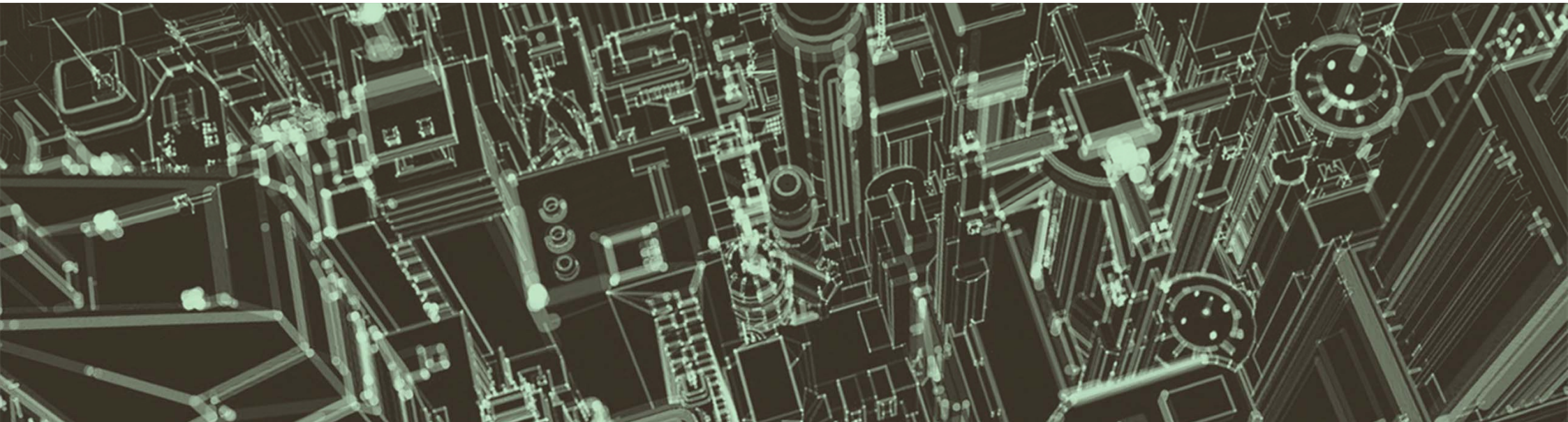
お金をかけて建築学生がリノベーションについて考えたら中川町の空き家は学生村へと容易に形を変えることだろう。

しかし、ワカフルの最終目標は「学生村の構築」だけでなく「若松を活気づける」ことだ。

若松の魅力を知ってもらい、町全体に活気が戻れば、人々は若松に行ってみたいと思うはずである。

そのために、ワカフルは若松の新たな魅力づくりや、魅力の発信を行っていきたいと考えている。

リノベーションを通して学生たちのポテンシャルを活かし、ひとつずつ街の課題を解決していきたい。



「若者」「若松」の夢を「パワフル」「カラフル」に「ワカフル」

